

6月15日(月曜日)「神の近くにいる幸い」

【新改訳 2017】

詩篇 73・1－28

「しかし私にとっては、神の近くにいることが、しあわせなのです。私は、神なる主を私の避け所とし、あなたのすべてのみわざを語りあげましょう。」(28節)

私たち人間は、何のために一生懸命に働いているのでしょうか。このように問われると、いろいろ挙げるにしても、最終的にまとめると、「幸せになりたい」と答える人が多いのではないかと思います。しかし、カール・ブッセの詩のように、「ああ、われ人ととめ行きて、涙さしぐみ帰り来ぬ」というのが実情ではないのでしょうか。実は、クリスチャンも、目に見える外的、物的な繁栄に幸せを見たいという誘惑にか

られます。この詩篇は、神を軽視している人々の物的な栄えに、ねたみと疑いをもつ心を表現しています。しかし、彼らの最後を聖所から見た時に解決しました。何よりも神の近くにいること、すなわち、神を礼拝し、神とともに歩むことが幸せであることを実感しています。物事を見るとき、その観点に注意すべきことを教えられます。

～祈り～

主よ。どうか、私たちが、いつも神の聖所から物事を見、考え、神の近くにいる幸いを覚える者でありますように。

【学びのために】

(参考区分) 1-12 節 疑惑—悪しき者の繁栄、13-20 節 疑惑への勝利のかぎ、21-28 節 信仰の勝利。